

日本 防火・防災 協会長賞

安全な街「逃げ遅れ0」を
目指した防災活動及び
平常時からの地域活動

あさひちょうさん ちょう め じ ち かい 旭町三丁目自治会

【団体概要】

昭和50年頃、町内及び近隣で火災が多発したことを受け、町内有志が集い、火災警防組織を立ち上げ「火の用心」の見回り活動を開始した。昭和53年には、前組織を継承し、自主防災組織を立ち上げた。地震等の災害による被害軽減を目的に活動しているが、防災活動の他、きれいな環境を保つことで安全な町内、住民の良好な関係づくりを図るため、毎日、公園の清掃や整備、小鳥の飼育や花壇作りも行っている。

【背景】

近年、住民の高齢化が進み、一人暮らし高齢者も多く、空き家も増え、不審火等に不安があることから、パトロール活動に加え、高齢者等要支援者への見回り活動や災害時の避難活動支援を行っている。平成27年関東東北豪雨では町内の川の氾濫、池の溢水等の被害があり、自らの地域を守ることの大切さを痛感し、活動の幅を広げながら40年間にわたり活動を行っている。

【取組の内容】

火災警防月間（毎年2月初旬～3月初旬）の1ヶ月間、毎日夜8時から1時間、拍子木と誘導灯を持ち、町内を20名で巡回している。休日の前日には小学生も参加し、危険箇所の確認等もすることで、自分たちで地域を守る大切さを教えており、四十年間続く活動となっている。

10年前からは、毎月3日、13日、23日に最寄りの交番と協力して不審者や不審火の警戒のため、「3の日パトロール」を実施している。

平常時には定期的な声かけを行い、災害時には要配慮者への積極的な支援を行うことで「逃げ遅れ0(ゼロ)」を目標に日々活動している。

【成果】

東日本大震災時には、役員や隊員により一人暮らし高齢者の安否確認を行い、全員の無事を確認できた。平成27年関東東北豪雨時にも同様に各家庭を訪問し、数名を自主的に開設した地元公民館に避難させ、その支援を行った。これらは特に高齢者世帯の不安解消に繋がり、町内が安全安心であると感謝の言葉をかけられる。

長年の声かけ等の活動により、顔が見える地域付き合いが形成され、災害時にもスムーズな避難・支援を行うことができている。



3の日パトロール時の防犯啓発チラシポスティングの様子



毎日清掃している地元公園の花壇・鳥小屋



毎年作成しているハザードマップ



パトロール活動の様子



選定委員Comment

旭町三丁目は、公園に隣接する落ち着いたたたずまいの地域である。以前、この公園は防火・防犯上の問題を抱えていたが、三丁目自治会の長年にわたるパトロール等の活動により今ではその心配は無くなっている。私が現地を訪れたときも、公園の小鳥小屋の前で談笑する親子連れ、ベンチで読書する若い女性の姿があった。

さて、三丁目自治会はなぜ40年間にわたり多彩な活動を継続できているのだろうか？現地ヒアリングを踏まえその要因を以下に整理してみた。

①地域の課題に敏感に反応し速やかに対応する

三丁目自治会の活動は「事例概要」では尽くせぬほど豊かである。それは、そのときどきの地域の課題を敏感に捉え速やかに解決してきたからである。たとえば、今でこそ高齢者等の要支援者への支援に取り組む自治会等は増えつつあるが、三丁目自治会では既に約20年も前からこれを当然のこととして行っている。

②住民が自治会の活動に感謝し応援している

三丁目自治会の活動により安全安心な地域が保たれていることに住民は感謝しており、パトロール隊に手を合わせる人もいるという。

さらに、自治会活動を応援するため、剪定用電動のこぎり、パトロール隊用ユニフォーム等々、住民からの寄付が後を絶たない。

③多数の参加を得て活動している

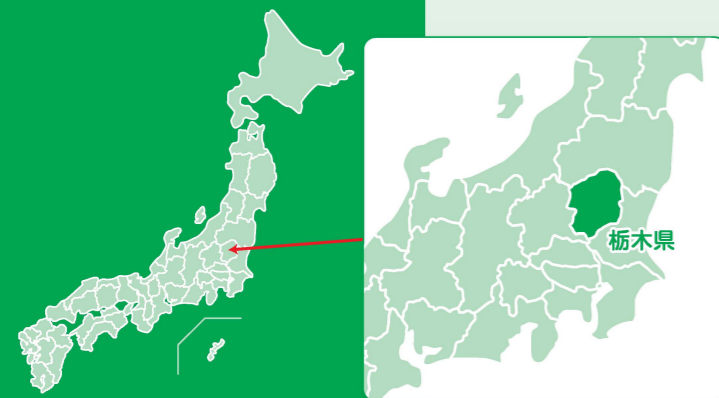
できるだけ多くの参加を得て活動するというスタンスが一貫している。たとえば、三丁目自治会では手作りのハザードマップを作成し毎年見直しを行っているが、その際には皆でワイワイガヤガヤ話し合いながら作業を行い、地域の重要情報を共有している。

④気負いなく取り組んでいる

活動の主力は気力・体力のある退職者等である。そのうちの少ない人が、自治会活動を「健康維持のための良い運動」といった具合に気負いなくとらえている。

以上の要因等が好循環を生み活動を継続させていると思われる。

全ての組織が直面する「活動の持続」に関する多くの示唆を含む事例である。



▶設立年

昭和29年4月

▶団体構成

約300名

▶所在地

栃木県栃木市旭町

▶取組開始年月

昭和53年1月～